工業団地とそれらを補完する幹線道路の整備について

野本　泰生　議員

質問 本市が躍動し、魅力的なまちを目指すためには工業団地を整備し、新たな企業を誘致することが重要であるが、新たな工業団地の整備概要は。

答弁 現在整備中の北部第四工業団地19・3ヘクタールは、来年7月に完成を予定し、着手した大島工業団地56・2ヘクタールは、来年度から造成工事を開始します。

質問 造成完了後に、スムーズな分譲が望まれるが、企業からの引き合いは来ているのか。

答弁 本市への進出希望企業からは、月に4～5件の引き合いが来ています。誘致については、群馬県と協力しながら積極的に営業活動等を行っています。

質問 2か所の造成地の他に、新たな地区の団地整備の予定はあるのか。

答弁 企業ニーズの取りこぼしのないように、諸条件の整っている渡瀬南部産業団地の周辺地区の可能性を検証していきます。

質問 工業団地の交通利便性をさらに向上させるためには、それらを補完する幹線道路の整備が必要だが、現在行われている、それらの整備状況は。

答弁 北成島町から苗木町までの国道122号館林バイパスは、今年度用地買収を開始、県道山王赤生田線楠工区バイパスの道路改良工事は、約7割進捗し、新設市道8505号線は、木戸町から日向町までで、江川橋を架け替えて新橋を架ける予定です。

質問 今後の幹線道路の整備については。

答弁 市街地への流入を防ぎ、渋滞を減らすだけでなく、産業振興や災害時の避難路として、また、栃木県、埼玉県などとの交流強化の効果があります。群馬県県土整備プランや都市計画マスタープランに位置づけのある路線の実現にむけて努力していきたいと考えています。さらに、東北自動車道では、市の北部のスマートインターチェンジの整備について、国やネクスコと調整を重ねていきたいと考えています。

COPDの重症化予防について 市内の公共施設のAEDについて

堀口　きく枝　議員

質問 COPD（慢性閉塞性肺疾患）は喫煙や粉じんなどによって気管支や肺が傷つき、息が吐きにくくなる病気です。国内の潜在患者数は約530万人と推定され、治療を受けている患者数は31・2万人と僅か6％です。自治体による啓発活動や受診勧奨の推進が大切です。本市の予防対策の取組について伺います。

答弁 早期発見、早期治療のために健康診査を受診していただくよう、また、初期症状や主な原因について知っていただくよう、啓発や情報発信を行っています。

質問 治療をすることで症状が改善し、フレイル予防や呼吸機能低下の抑制も期待されます。日本呼吸器学会が推奨するCOPDーPS、集団スクリーニング質問票について、本市の考えを伺います。

答弁 本市においては、COPDの認知度向上のために、今年度、健診会場で配布するチラシの裏面に印刷し活用しています。

質問 市内公共施設のAEDの設置台数を伺います。

答弁 学校など79施設に計110台設置しています。

質問 近くにあるAEDの設置場所を示してくれるスマートフォンのアプリの活用について、本市の考えを伺います。

答弁 簡単にアプリのダウンロードができ、操作もしやすいので、今後、広報や公式ラインなどを活用し、アプリの周知を進めていきたいと考えています。

質問 AEDの使用時に、女性のプライバシー保護や応急手当に三角巾の配備を要望したいと思いますが、本市の考えを伺います。

答弁 AEDとともに、三角巾を配備することは、一刻を争う救命処置の際、そして応急手当にも役立つものと考えられますので、市庁舎や公共施設への三角巾の配備を進めていきたいと考えています。